| 学域名 | 医薬保健学域 |
|---|---|
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 作業療法学専攻（平成24年度以降の入学者用） |

**学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2. 医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。

以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

**専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**

1）人を思いやる優しい専門職としてのこころと態度を持つ人材を育成する。
2）作業療法学の発展をリードすることができる有能な人材を育成する。
3）作業療法の技術開発と有効なエビデンスの基礎を学び，実証できる知識と技術を修得した人材を育成する。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

**専攻のCP（カリキュラム編成方針）**

作業療法士は人と接する職業であるため，幅広い教養と知識を身につけることが大切である。保健・医療の領域で活動を行うために，医学の基礎知識の修得が重要である。専門基礎科目として，解剖・生理学，運動学などを学び，その後に臨床医学へと結びつけていく。学生は学内だけの講義・実習に加えて，リハビリテーションが行われている実際の現場を見学して学んでいく。学年進行にあわせて，作業療法専門科目が多くなるが，学外での評価学実習を組み入れて，学内で学んだ知識と技術を臨床を通して確認しながら進めていく。同時に面接等において必要な対人交流技術を修得する。最終学年においてはそれまでに修得した基礎科目及び専門科目を統合し，作業療法士に必要な知識・技術をさらに磨き修得できる教育課程に編成している。

**専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）**

| 目標A | 目標B | 目標C | 目標D | 目標E | 目標F | 目標G | 目標H | 目標I | 目標J | 目標K | 目標L | 目標M | 目標N | 目標O |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 正常な身体と発達を理解する | | 疾病・障害を理解する | 地域における保健の役割を理解する | | 作業療法の基礎を理解する | | 評価法を理解する | 疾患・障害に応じた作業療法の実践を理解する | | | | 臨床的応用法を修得する | | 初歩的な研究技能を学ぶ |

**専攻のカリキュラム**

| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | 目標A | 目標B | 目標C | 目標D | 目標E | 目標F | 目標G | 目標H | 目標I | 目標J | 目標K | 目標L | 目標M | 目標N | 目標O |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 正常な人体の構造と機能を理解し，身体運動と日常生活での営みと関連させて理解する | 身体運動機能・知的機能の正常な発達を理解する | 健康・疾病・障害の概念および症候・診断・治療について理解する | 保健医療福祉の推進のために作業療法士が果たす役割を理解する | 地域における関係諸機関と対象者に対する調整の役割を理解する | 作業療法概念および作業療法の展開方法を理解する | 基礎作業療法学の理念を理解する | 作業療法評価の概念を理解し，評価技術・技能を修得する | 作業治療学の基本的枠組みを理解する | 身体・老年期・精神・発達障害に関する知識・技術・技能を修得する. | 生活および職業関連活動における作業行動の形成について理解する | 地域ケア活動の基本的な概念，展開のための能力を修得する | 臨床的観察力・分析力，そして治療計画立案能力・実践力を身につける | 作業療法を推進するための知識・技術・技能を統合する | 研究の知識・技能を修得する |
| | 医薬保健学基礎 | 保健学，およびチーム医療について学び，保健学類の各専攻の内容を理解する。<br>チーム医療における各職種の立場，役割を理解できるようになる。 | | | | | | | ◎ | ○ | | | | | | | | | | |
| | 生体の構造 | 1. 人体の骨関節系を理解できる。<br>2. 人体の骨格筋系を理解できる。<br>3. 人体の神経系を理解できる。 | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 生体の機能 | 1. 生命の最小単位である細胞の構造と機能を理解する。<br>2. 細胞間でどのような情報交換がなされているのかを理解する。<br>3. 神経細胞はどのようにして情報を伝えるのかを理解する。<br>4. 内臓機能は自律神経系と内分泌系によりどのように調節されているのかを理解する。<br>5. 体の中を循環している血液の役割を理解する。<br>6. 個々の細胞が生きるために必要な酸素を取り込む仕組みを理解する。 | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 人体構造学演習 | 1. 人体の内臓系を理解できる。<br>2. 人体の脈管系を理解できる。<br>3. 組織学の初歩を理解できる。 | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 人体構造学実習 | 1. 正常解剖体を用いて、具体的かつ総合的に人体の構造を理解できる。<br>2. 人骨、脳脊髄、切断四肢を用いて、各臓器を個別に理解できる。 | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 人体機能学演習Ⅰ | 1. 心臓の拍動する仕組み、およびその調節機構を理解する。<br>2. 血液循環の仕組み、およびその調節機構を理解する。<br>3. 腎臓で尿が作られる仕組み、および、尿生成により体液組成が調節される仕組みを理解する。<br>4. 消化管運動および消化液分泌による食べ物の消化、および栄養素吸収の仕組みを理解する。<br>5. 体に必要な栄養素が体内でどのように代謝されるのかを理解する。<br>6. 体内での熱産生と熱放散のバランスをとることにより体温が維持される仕組みを理解する。 | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 人体機能学演習Ⅱ | 1. 骨格筋の収縮メカニズムを理解する。<br>2. 運動が脳のどの部位でどのように制御されているのかを理解する。<br>3. 体性感覚、視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚の仕組みを理解する。<br>4. 意識レベルや睡眠リズムがどのように調節されているのかを理解する。<br>5. 恐れや怒りなどの情動や本能行動を引き起こす仕組みを理解する。<br>6. 記憶・学習、認識、言語、思考などの脳の高次機能の仕組みを理解する。 | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|---|---|
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 作業療法学専攻（平成24年度以降の入学者用） |

**学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2. 医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。

以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

**専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**

1）人を思いやる優しい専門職としてのこころと態度を持つ人材を育成する。
2）作業療法学の発展をリードすることができる有能な人材を育成する。
3）作業療法の技術開発と有効なエビデンスの基礎を学び，実証できる知識と技術を修得した人材を育成する。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

**専攻のCP（カリキュラム編成方針）**

作業療法士は人と接する職業であるため，幅広い教養と知識を身につけることが大切である。保健・医療の領域で活動を行うために，医学の基礎知識の修得が重要である。専門基礎科目として，解剖・生理学，運動学などを学び，その後に臨床医学へと結びつけていく。学生は学内だけの講義・実習に加えて，リハビリテーションが行われている実際の現場を見学して学んでいく。学年進行にあわせて，作業療法専門科目が多くなるが，学外での評価学実習を組み入れて，学内で学んだ知識と技術を臨床を通して確認しながら進めていく。同時に面接等において必要な対人交流技術を修得する。最終学年においてはそれまでに修得した基礎科目及び専門科目を統合し，作業療法士に必要な知識・技術をさらに磨き修得できる教育課程に編成している。

**専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）**

| 専攻の学習成果 | 目標A | 目標B | 目標C | 目標D | 目標E | 目標F | 目標G | 目標H | 目標I | 目標J | 目標K | 目標L | 目標M | 目標N | 目標O |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 正常な身体と発達を理解する | | 疾病・障害を理解する | 地域における保健の役割を理解する | | 作業療法の基礎を理解する | | 評価法を理解する | 疾患・障害に応じた作業療法の実践を理解する | | | | 臨床的応用法を修得する | | 初歩的な研究技能を学ぶ |
| | 正常な人体の構造と機能を理解し，身体運動と日常生活での営みと関連させて理解する | 身体運動機能・知的機能の正常な発達を理解する | 健康・疾病・障害の概念および症候・診断・治療について理解する | 保健医療福祉の推進のために作業療法士が果たす役割を理解する | 地域における関係諸機関と対象者に対する調整の役割を理解する | 作業療法概念および作業療法の展開方法を理解する | 基礎作業療法学の理念を理解する | 作業療法評価の概念を理解し，評価技術・技能を修得する | 作業治療学の基本的枠組みを理解する | 身体・老年期・精神・発達障害に関する知識・技術・技能を修得する. | 生活および職業関連活動における作業行動の形成について理解する | 地域ケア活動の基本的な概念，展開のための能力を修得する | 臨床的観察力・分析力，そして治療計画立案能力・実践力を身につける | 作業療法を推進するための知識・技術・技能を統合する | 研究の知識・技能を修得する |

**専攻のカリキュラム**

| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | 目標A | 目標B | 目標C | 目標D | 目標E | 目標F | 目標G | 目標H | 目標I | 目標J | 目標K | 目標L | 目標M | 目標N | 目標O |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 人体機能学実習 | 1. 実験に頻繁に使用される機器（オシロスコープや刺激装置など）の使い方をマスターする.<br>2. 興奮伝導の性質およびその仕組みを理解する.<br>3. 骨格筋の収縮の性質およびその仕組みを理解する.<br>4. 心筋細胞の電気活動と収縮との関係を理解する.<br>5. 心電図の各波形が何を表しているのか、また、心電図から何がわかるのかを理解する.<br>6. 誘発筋電図の発生メカニズム、および、それから何がわかるのかを理解する.<br>7. 皮膚の触覚は体の部位により精度が異なることを理解する.<br>8. 視野の性質（大きさ、色による違い、盲点の存在）を理解する.<br>9. 感覚受容から反応（骨格筋の収縮）までにかかる時間の意味を理解する.<br>10. 肺気量の大きさや呼吸機能を調べる方法の原理を理解する。 | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| | 基礎運動学 | 身体動作に必要な関節の構造を理解し、筋、神経の関与について学習する。筋力と体力の違いを区別し、医療としての介入方法について知識を得る。小児の発達のパターンを知り、発達の遅れとの違いおよび運動学習の導入の意味について理解する。引き続いて開講される運動学実習の基礎知識を養う。 | | | | ○ | △ | | | | | | | | | | | | | |
| | 運動学実習 | 表面筋電図で、筋活動の評価ができるようになる。等速性運動評価機器、ピンチ計やハンドダイナモメータでの筋力評価ができるようになる。重心動揺計での測定の技術を習得する。自転車エルゴメータによる呼吸循環器系の反応を捉えられるようになる。関節運動をゴニオメータを使用して評価できるようになる。運動学的解析を自ら計画し施行できるようにする。 | | | | ◎ | ○ | | | | | | △ | | | | | | | |
| | リハビリテーション医学概論 | 1. リハビリテーションの概念を理解できる。<br>2. リハビリテーション医療を行う上での医療技術者の役割を理解できる。 | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| | 人間発達学 | 新生児期から成青年期までの認知的，情緒的，社会的発達を総合的に理解できる。 | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | |
| | 臨床医学入門 | 1. 患者との関係，医療倫理，診療録の記載方法などを修得する。<br>2. 主な症状の病態および鑑別診断を理解できる。<br>3. 基本的な身体所見の取り方および病態との関係を理解できる。<br>4. 臨床疫学，大規模臨床試験を基にした科学的根拠に基づく医療を理解できる。<br>5. 医療制度および現在直面する医療問題を理解できる。 | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| | 呼吸循環器病態学 | 1. 心機能の調節系と心不全の病態を理解できる。<br>2. 動脈硬化の成因と冠動脈疾患の病態を理解できる。<br>3. 心臓電気生理と不整脈の成因を理解できる。<br>4. 心疾患と治療の考え方を理解できる。<br>5. 呼吸機能および呼吸器疾患の病態を理解できる。 | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| | 発生発達病態学 | 小児期に多い疾患を理解し，専門分野での疾病理解に役立てることができる。 | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| | 神経病態学 | 1. 神経症候学と神経系の局在診断を理解できる。神経系の各種疾患に見られる症状・障害と病態を理解できる。<br>2. 各疾患の定義、臨床症状、臨床経過、治療原則を理解できる。<br>3. 急性期、亜急性期、回復期、維持期それぞれのリハビリテーションにおける脳神経疾患の病態、ゴール、禁忌事項などを理解し、関連事項を習得する。 | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | |

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|---|---|
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 作業療法学専攻（平成24年度以降の入学者用） |

**学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2. 医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。

以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

**専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**

1）人を思いやる優しい専門職としてのこころと態度を持つ人材を育成する。
2）作業療法学の発展をリードすることができる有能な人材を育成する。
3）作業療法の技術開発と有効なエビデンスの基礎を学び，実証できる知識と技術を修得した人材を育成する。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

**専攻のCP（カリキュラム編成方針）**

作業療法士は人と接する職業であるため，幅広い教養と知識を身につけることが大切である。保健・医療の領域で活動を行うために，医学の基礎知識の修得が重要である。専門基礎科目として，解剖・生理学，運動学などを学び，その後に臨床医学へと結びつけていく。学生は学内だけの講義・実習に加えて，リハビリテーションが行われている実際の現場を見学して学んでいく。学年進行にあわせて，作業療法専門科目が多くなるが，学外での評価学実習を組み入れて，学内で学んだ知識と技術を臨床を通して確認しながら進めていく。同時に面接等において必要な対人交流技術を修得する。最終学年においてはそれまでに修得した基礎科目及び専門科目を統合し，作業療法士に必要な知識・技術をさらに磨き修得できる教育課程に編成している。

**専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）**

**専攻のカリキュラム**

| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | 目標A 正常な人体の構造と機能を理解し，身体運動と日常生活での営みと関連させて理解する（正常な身体と発達を理解する） | 目標B 身体運動機能・知的機能の正常な発達を理解する（正常な身体と発達を理解する） | 目標C 健康・疾病・障害の概念および症候・診断・治療について理解する（疾病・障害を理解する） | 目標D 保健医療福祉の推進のために作業療法士が果たす役割を理解する（地域における保健の役割を理解する） | 目標E 地域における関係諸機関と対象者に対する調整の役割を理解する（地域における保健の役割を理解する） | 目標F 作業療法概念および作業療法の展開方法を理解する（作業療法の基礎を理解する） | 目標G 基礎作業療法学の理念を理解する（作業療法の基礎を理解する） | 目標H 作業療法評価の概念を理解し，評価技術・技能を修得する（評価法を理解する） | 目標I 作業治療学の基本的枠組みを理解する（疾患・障害に応じた作業療法の実践を理解する） | 目標J 身体・老年期・精神・発達障害に関する知識・技術・技能を修得する.（疾患・障害に応じた作業療法の実践を理解する） | 目標K 生活および職業関連活動における作業行動の形成について理解する（疾患・障害に応じた作業療法の実践を理解する） | 目標L 地域ケア活動の基本的な概念，展開のための能力を修得する（疾患・障害に応じた作業療法の実践を理解する） | 目標M 臨床的観察力・分析力，そして治療計画立案能力・実践力を身につける（臨床的応用法を修得する） | 目標N 作業療法を推進するための知識・技術・技能を統合する（臨床的応用法を修得する） | 目標O 研究の知識・技能を修得する（初歩的な研究技能を学ぶ） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 感覚運動器系病態学 | 1. 整形外科疾患の病態を理解し，的確な評価と治療を行うための基礎知識を習得する。 | | | | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| | 基礎病態学 | 1. 生物の基本単位である細胞，そして機能単位としての組織レベルから病気を理解できる。<br>2. 疾患の症状や治療についての科学的，医学的な背景を理解できる。<br>3. すべての医学研究の基礎である病理学の考え方に接することで，将来の教育・研究者としての素養を習得する。 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | 運動器系病理学 | 1. 運動器の疾患について、その病態、症状を理解できる。<br>2. すべての医学研究の基礎である病理学の考え方に接することで，将来の教育・研究者としての素養を習得する。 | | | | ○ | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| | 老年期病態学 | 1. 各器官の正常解剖および生理機能と対比させて，高齢者における特性（老化の影響）を理解できる。<br>2. 高齢者における疾患の病態，診断・治療理論を理解できる。 | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| | 精神障害学 | ・精神症状のアセスメントができる.<br>・精神疾患，精神科治療の基礎知識を修得する. | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| | 脳内情報伝達障害学 | ・高次脳機能障害の基礎知識を修得する. | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | 作業療法学概論Ⅰ | 1. 作業療法とは何かを説明できるようになる.<br>2. 作業療法の職域を説明することができる.<br>3. 提示された課題を積極的に取り組み，自分の考えをまとめ，対象者に伝える技術を養う. | | | | | | | | | ◎ | ○ | | | | | | | | |
| | 作業療法学概論Ⅱ | 1. 作業療法における基本的な用語を理解し，説明することができる.<br>2. モデル事例を通してICF分類ができる.<br>3. モデル事例を通して作業療法のプロセスを把握し，発表できる. | | | | | | | ◎ | | ◎ | ○ | | | | | | | | |
| | 基礎作業学 | 1.作業分析を行う目的を理解する.<br>2.具体的な分析方法を考え，順序だてて分析する<br>3.分析結果から作業工程内の問題点を抽出する.<br>4.問題点の原因を考える.<br>5.今後どのような分析する視点が必要かを検討する. | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | |
| | 基礎作業学演習 | 1.作業分析の目的を理解した上で，具体的な分析方法を考える.<br>2分析に必要な項目を列挙し、適切であるかを検討する.<br>3.分析結果から問題点を選出法を考える<br>4.得られた結果からなにが分かるか考える..<br>5.解析したデータのまとめ方を考える. | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | |
| | 基礎作業学実習 | 1.作業療法としての陶芸，織物，金工などの基本技術を理解する.<br>2.陶芸，織物，金工などの工程で作業・動作分析を行い，治療手段への応用を理解する.<br>3.各作業における道具と機器の取り扱いと安全対策を理解する. | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | |
| | 作業療法評価学 | 1. 基礎的な身体機能を理解する.<br>2. 検査・測定の手技を習得する.<br>3. 代表的な疾患・損傷を理解する. | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | ○ | ○ | | | |
| | 作業療法評価学実習 | ・基本的な身体機能を理解する.<br>・検査・測定の手技を習得する.<br>・代表的な疾患・損傷を理解する. | | | | | | | | | | | ◎ | | ○ | | | | △ | |

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|---|---|
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 作業療法学専攻（平成24年度以降の入学者用） |

**学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2. 医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。

以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

**専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**

1）人を思いやる優しい専門職としてのこころと態度を持つ人材を育成する。
2）作業療法学の発展をリードすることができる有能な人材を育成する。
3）作業療法の技術開発と有効なエビデンスの基礎を学び，実証できる知識と技術を修得した人材を育成する。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

**専攻のCP（カリキュラム編成方針）**

作業療法士は人と接する職業であるため，幅広い教養と知識を身につけることが大切である。保健・医療の領域で活動を行うために，医学の基礎知識の修得が重要である。専門基礎科目として，解剖・生理学，運動学などを学び，その後に臨床医学へと結びつけていく。学生は学内だけの講義・実習に加えて，リハビリテーションが行われている実際の現場を見学して学んでいく。学年進行にあわせて，作業療法専門科目が多くなるが，学外での評価学実習を組み入れて，学内で学んだ知識と技術を臨床を通して確認しながら進めていく。同時に面接等において必要な対人交流技術を修得する。最終学年においてはそれまでに修得した基礎科目及び専門科目を統合し，作業療法士に必要な知識・技術をさらに磨き修得できる教育課程に編成している。

**専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）**

| 目標A | 目標B | 目標C | 目標D | 目標E | 目標F | 目標G | 目標H | 目標I | 目標J | 目標K | 目標L | 目標M | 目標N | 目標O |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 正常な身体と発達を理解する | | 疾病・障害を理解する | 地域における保健の役割を理解する | | 作業療法の基礎を理解する | | 評価法を理解する | 疾患・障害に応じた作業療法の実践を理解する | | | | 臨床的応用法を修得する | | 初歩的な研究技能を学ぶ |
| 正常な人体の構造と機能を理解し，身体運動と日常生活での営みと関連させて理解する | 身体運動機能・知的機能の正常な発達を理解する | 健康・疾病・障害の概念および症候・診断・治療について理解する | 保健医療福祉の推進のために作業療法士が果たす役割を理解する | 地域における関係諸機関と対象者に対する調整の役割を理解する | 作業療法概念および作業療法の展開方法を理解する | 基礎作業療法学の理念を理解する | 作業療法評価の概念を理解し，評価技術・技能を修得する | 作業治療学の基本的枠組みを理解する | 身体・老年期・精神・発達障害に関する知識・技術・技能を修得する. | 生活および職業関連活動における作業行動の形成について理解する | 地域ケア活動の基本的な概念，展開のための能力を修得する | 臨床的観察力・分析力，そして治療計画立案能力・実践力を身につける | 作業療法を推進するための知識・技術・技能を統合する | 研究の知識・技能を修得する |

**専攻のカリキュラム**

| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | 目標A | 目標B | 目標C | 目標D | 目標E | 目標F | 目標G | 目標H | 目標I | 目標J | 目標K | 目標L | 目標M | 目標N | 目標O |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 精神障害評価学 | 1. 計測・測定の結果と評価を理解する.<br>2. 障害の評価および問題点の抽出を理解する.<br>3. 目標および治療プログラムの立案の流れを理解する.<br>4. 精神疾患の脳の機能的障害と行動障害の理解を深めプログラムへの応用を理解する. | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| | 精神障害評価学演習 | 1. 必要な情報の選択と分析を理解する.<br>2. 教科書や論文などで調べる方法を理解する.<br>3. 医学用語の正しく理解する.<br>4. ディスカッションの方法を理解する.<br>5. 作業療法での患者への対応方法を理解する.<br>6. 測定結果の分析と評価を理解する.<br>7. 問題点の抽出と治療計画を理解する. | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 高次脳機能障害評価学 | 各種の高次神経機能障害の特徴を学び，対象にあった評価法を選択できるようになる. | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | △ | |
| | 身体障害作業療法学 | 1. 疾患の特性と障害を修得する.<br>2. 各種疾患の不明な点，および疑問点を抽出できる.<br>3. 疾患と障害に応じた作業療法アプローチ法を修得する. | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | △ | △ | | | |
| | 身体障害作業療法学実習Ⅰ | ・各種疾患による心理社会的および身体的障害を理解する.<br>・作業活動の目的を理解する.<br>・障害構造に対応した作業療法のアプローチの考え方を理解する. | | | | | | | | | | | | ○ | ◎ | △ | △ | | | |
| | 身体障害作業療法学実習Ⅱ | ・各種疾患による心理社会的および身体的障害に対する問題解決の方法を習得する.<br>・作業活動の利用方法を習得する. | | | | | | | | | | | | ○ | ◎ | △ | △ | | | |
| | 作業療法プログラム学 | 1. 障害の評価及び問題点の抽出の理解する.<br>2. 目標及び治療プログラムの立案の流れを理解する.<br>3. 治療プログラムの段階づけと環境整備等を理解する.<br>4. 疾患及び症状の理解を深め治療プログラムへの応用を理解する. | | | | | | | | | | | ○ | ◎ | ○ | | | | | |
| | 精神障害作業療法学 | 1. 脳の機能と行動の特徴を理解する.<br>2. 脳の機能障害と生活で生じる問題を理解する.<br>3. 精神科作業療法で用いられる理論を理解する.<br>4. 精神障害の作業療法の治療方法と技術を理解する. | | | | | | | | | | | ○ | ◎ | | | | | | |
| | 高次脳機能障害演習Ⅰ | 各種の高次神経機能障害の特徴を学び，各患者さんにあった評価法を選択でき、またその評価内容を解釈できるようになる. | | | | | | | | | | | | | ○ | | ○ | | | |
| | コミュニケーション障害学 | コミュニケーション障害を持つ人に対してどのように対応すればよいかを考える。 | | | | | | ◎ | | | | △ | △ | | | | | | | |
| | 日常生活活動学 | 1. 基本動作の評価を理解する.<br>2. ADLの評価法を理解する.<br>3. 疾患及び症状に伴う障害の特徴を理解し機能・活動障害の関連性を理解する. | | | | | | | | | | | ○ | | | ◎ | ○ | | | |

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|---|---|
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 作業療法学専攻（平成24年度以降の入学者用） |

**学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2. 医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。

以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

**専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**

1）人を思いやる優しい専門職としてのこころと態度を持つ人材を育成する。
2）作業療法学の発展をリードすることができる有能な人材を育成する。
3）作業療法の技術開発と有効なエビデンスの基礎を学び，実証できる知識と技術を修得した人材を育成する。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

**専攻のCP（カリキュラム編成方針）**

作業療法士は人と接する職業であるため，幅広い教養と知識を身につけることが大切である。保健・医療の領域で活動を行うために，医学の基礎知識の修得が重要である。専門基礎科目として，解剖・生理学，運動学などを学び，その後に臨床医学へと結びつけていく。学生は学内だけの講義・実習に加えて，リハビリテーションが行われている実際の現場を見学して学んでいく。学年進行にあわせて，作業療法専門科目が多くなるが，学外での評価学実習を組み入れて，学内で学んだ知識と技術を臨床を通して確認しながら進めていく。同時に面接等において必要な対人交流技術を修得する。最終学年においてはそれまでに修得した基礎科目及び専門科目を統合し，作業療法士に必要な知識・技術をさらに磨き修得できる教育課程に編成している。

**専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）**

| 目標A | 目標B | 目標C | 目標D | 目標E | 目標F | 目標G | 目標H | 目標I | 目標J | 目標K | 目標L | 目標M | 目標N | 目標O |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 正常な身体と発達を理解する | | 疾病・障害を理解する | 地域における保健の役割を理解する | | 作業療法の基礎を理解する | | 評価法を理解する | 疾患・障害に応じた作業療法の実践を理解する | | | | 臨床的応用法を修得する | | 初歩的な研究技能を学ぶ |
| 正常な人体の構造と機能を理解し，身体運動と日常生活での営みと関連させて理解する | 身体運動機能・知的機能の正常な発達を理解する | 健康・疾病・障害の概念および症候・診断・治療について理解する | 保健医療福祉の推進のために作業療法士が果たす役割を理解する | 地域における関係諸機関と対象者に対する調整の役割を理解する | 作業療法概念および作業療法の展開方法を理解する | 基礎作業療法学の理念を理解する | 作業療法評価の概念を理解し，評価技術・技能を修得する | 作業治療学の基本的枠組みを理解する | 身体・老年期・精神・発達障害に関する知識・技術・技能を修得する. | 生活および職業関連活動における作業行動の形成について理解する | 地域ケア活動の基本的な概念，展開のための能力を修得する | 臨床的観察力・分析力，そして治療計画立案能力・実践力を身につける | 作業療法を推進するための知識・技術・技能を統合する | 研究の知識・技能を修得する |

**専攻のカリキュラム**

| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | 目標A | 目標B | 目標C | 目標D | 目標E | 目標F | 目標G | 目標H | 目標I | 目標J | 目標K | 目標L | 目標M | 目標N | 目標O |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 生活適応能力学 | 1. 疾患の障害構造をイメージし、想定される起居、移乗動作、ADL能力を理解する.<br>2. 障害された基本動作（起居、移乗、移動動作）能力を高めるための指導法の習得する.<br>3. 低下したADL能力を高めるためのADLアプローチを習得する.<br>4. ADLの技術については実際に体験的に学習し，自ら遂行できるように技術を習得する. | | | | | | | | | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 生活適応能力学演習 | 1. 疾患の障害構造をイメージし、想定される起居、移乗動作、ADL能力の活用する<br>2. 障害された基本動作（起居、移乗、移動動作）能力を高めるための指導法の習得する。<br>3. 低下したADL能力向上のADLアプローチを習得する。<br>4. ADLの技術については実際に体験的に学習し，自ら遂行できるように技術を習得する。 | | | | | | | | | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 義肢装具学 | 1. 運動器疾患の特徴を解剖・生理学的に整理し，障害の評価・治療の流れを理解する. | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | | ○ | | | |
| | 発達期作業療法学 | 1. 子供の適応障害の要因となる問題を活動<br>2. 社会生活分析できる知識を習得する.<br>3. 作業療法支援を行えるための知識，技術を習得する. | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | | | | | |
| | 発達期作業療法学演習 | 1. 作業療法支援を行えるための知識，技術を習得する.<br>2. 事例を通し発達障害評価の選択や評価方法を修得する<br>3. 幼児から成人までの生活や現状の社会資源のあり方を通し作業療法における個別的な関わりを考える. | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | | | | | |
| | 作業療法臨床セミナーⅠ | 1. 臨床実習を取り組むための基礎知識を習得する.<br>2. 事例について検討し，知識・技術を習得する. | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |
| | 作業療法臨床セミナーⅡ | 1. 臨床実習で経験した事例について検討し，知識・技術を再統合する.<br>2. 臨床実習で得た知識・技術等を他学生に正確に伝える技術を修得する.<br>3. 作業療法研究を取り組むための基礎知識を修得する. | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |
| | 卒業研究 | 1. 研究疑問・テーマを検討し，実験・調査等を実施する.<br>2. 文献検索技術を修得し，先行研究を熟読する.<br>3. 過程を結果としてまとめ，結果を先行研究と熟慮して考察し，その結論を導く.<br>4. 論文としてまとめる．・成果を発表する. | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ |
| | 療養行動援助論 | 1. 健康障害をもつことについて説明することができる。<br>2. 健康障害への対処あるいは適応する個人および家族のニーズとケアについて説明することができる。<br>3. 人間関係とその援助方法を説明することができる。 | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | △ | | | |
| | 作業療法学英語 | 1. 文献を検索する方法をマスターする.<br>2. 文献の内容を読みこなすために必要な専門知識を身につける.<br>3. 英文の文献を読みこなすために必要な英語力を身につける.<br>4. 論文の内容を理解する力を身につける.<br>5. 自分の理解した事を他の人にわかりやすく説明する力を身につける。 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| | 医用物理学実験 | 研究目的を立て，それを達成するため，いかなる実験を行えばよいか。また，得られたデータはどの程度信頼でき，結果からどのようなことが言えるのか等，研究を行う上で最低限知っておかなければならない基礎的な知識を学ぶ。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|---|---|
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 作業療法学専攻（平成24年度以降の入学者用） |

**学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2. 医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。

以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

**専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**

1）人を思いやる優しい専門職としてのこころと態度を持つ人材を育成する。
2）作業療法学の発展をリードすることができる有能な人材を育成する。
3）作業療法の技術開発と有効なエビデンスの基礎を学び，実証できる知識と技術を修得した人材を育成する。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

**専攻のCP（カリキュラム編成方針）**

作業療法士は人と接する職業であるため，幅広い教養と知識を身につけることが大切である。保健・医療の領域で活動を行うために，医学の基礎知識の修得が重要である。専門基礎科目として，解剖・生理学，運動学などを学び，その後に臨床医学へと結びつけていく。学生は学内だけの講義・実習に加えて，リハビリテーションが行われている実際の現場を見学して学んでいく。学年進行にあわせて，作業療法専門科目が多くなるが，学外での評価学実習を組み入れて，学内で学んだ知識と技術を臨床を通して確認しながら進めていく。同時に面接等において必要な対人交流技術を修得する。最終学年においてはそれまでに修得した基礎科目及び専門科目を統合し，作業療法士に必要な知識・技術をさらに磨き修得できる教育課程に編成している。

**専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）**

| 目標A | 目標B | 目標C | 目標D | 目標E | 目標F | 目標G | 目標H | 目標I | 目標J | 目標K | 目標L | 目標M | 目標N | 目標O |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 正常な身体と発達を理解する | | 疾病・障害を理解する | 地域における保健の役割を理解する | | 作業療法の基礎を理解する | | 評価法を理解する | 疾患・障害に応じた作業療法の実践を理解する | | | | 臨床的応用法を修得する | | 初歩的な研究技能を学ぶ |
| 正常な人体の構造と機能を理解し，身体運動と日常生活での営みと関連させて理解する | 身体運動機能・知的機能の正常な発達を理解する | 健康・疾病・障害の概念および症候・診断・治療について理解する | 保健医療福祉の推進のために作業療法士が果たす役割を理解する | 地域における関係諸機関と対象者に対する調整の役割を理解する | 作業療法概念および作業療法の展開方法を理解する | 基礎作業療法学の理念を理解する | 作業療法評価の概念を理解し，評価技術・技能を修得する | 作業治療学の基本的枠組みを理解する | 身体・老年期・精神・発達障害に関する知識・技術・技能を修得する. | 生活および職業関連活動における作業行動の形成について理解する | 地域ケア活動の基本的な概念，展開のための能力を修得する | 臨床的観察力・分析力，そして治療計画立案能力・実践力を身につける | 作業療法を推進するための知識・技術・技能を統合する | 研究の知識・技能を修得する |

**専攻のカリキュラム**

| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | 目標A | 目標B | 目標C | 目標D | 目標E | 目標F | 目標G | 目標H | 目標I | 目標J | 目標K | 目標L | 目標M | 目標N | 目標O |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 生体物質化学実験 | 1.自分自身で実験を実行する。多くの実験課題は1人で実行できるよう準備してある。<br>2. マニュアル通りに手を動かすのではなく，よく考えながら注意深く観察して実験する姿勢を習得する。さらに考えたことや観察したことを適切な文章で表現できるようトレーニングする。重要な物質，現象，反応は，レポートの課題として取り上げてある。<br>3. 自分の実験結果を合理的に，かつ他人にわかりやすく整理する技術を習得する。基本的な解析・整理技術もレポートの課題として取り上げてある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| | 生命科学実験 | 生きたままの生物材料を用いて生命現象に理解できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| | 公衆衛生学 | 1. 健康についての自分なりの考え方をもつ。<br>2. 健康現象の成立要件を理解し，その測定について理解できる。<br>3. 地域保健の課題と健康管理について理解できる。<br>4. 人々の健康を守り高めるための社会の仕組みを理解できる。 | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| | 福祉行政経営 | 教師は、次回の授業の内容に関するテキスト頁範囲を事前に予告するので、受講者は、必ず、このテキスト頁範囲を読んだうえで授業に臨まなければならない。また、当日の授業において、教師が復習せよと指示した事柄を、受講者は必ず復習しなければならない。 | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | |
| | 高次脳機能障害演習Ⅱ | さまざまな高次脳機能障害関連の評価法を正しく実施でき、結果の解釈ができるようになる。 | | | | | | | | | | | | | ○ | | ○ | | | |
| | クリニカルリーズニング | 1. 運動機能，動作分析，作業分析の評価について修得する<br>2. 研究論文をPPTにまとめプレゼンし，計測方法の臨床的応用について学習する<br>3. 発表に際し、理解しやすい内容にまとめる方法を学習する<br>4. 関連論文を調べ，計測技術，知識を深める<br>5. 評価実習や臨床実習で活用できる評価を習得する | | | | | | | | | | | ○ | ◎ | ○ | | | | | |
| | 医療統計学 | 1. 統計学の基本理論を身に付ける.<br>2. パソコンソフト（Excel 等）を用いた実際のデータ解析の方法の習得を目指す. | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| | 医療統計学セミナー | 1.統計の基礎理論を学生一人一人が他学生に講義することにより身につける。当たった学生はテキストを予習し担当範囲を皆の前で分かりやす解説する。また出席学生は担当学生に不明な点を質問する。<br>2.各学生は少なくとも1回講義を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| | リハビリテーション医学実習 | 1. 病院および施設におけるリハビリテーションの役割を知る.<br>2. リハビリテーションに関わる職種の役割を知る.<br>3. リハビリテーションチーム医療のあり方を知る.<br>4. 各施設の特徴を知る. | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | 地域作業療法学 | 1. 関連法規を修得する.<br>2. 介護保険制度の目的，実施体制について理解する.<br>3. 訪問リハビリ，デイケア，デイサービス，機能訓練事業等の実際を知る.<br>4. 地域リハにおける作業療法の役割を修得する.<br>5. 行政との関連について修得する. | | | | | | | | | | | | | | ○ | ◎ | | | |
| | 老年期作業療法学 | 1. 高齢期疾患の特徴と評価及びリスク管理を理解する.<br>2. 補装具等の選択と適応を深め，高齢期リハビリテーションの実践を理解する.<br>3. 認知症の理解を深め，そのリハビリテーションの実践を理解する. | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | |

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|---|---|
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 作業療法学専攻（平成24年度以降の入学者用） |

**学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2. 医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。

以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

**専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**

1）人を思いやる優しい専門職としてのこころと態度を持つ人材を育成する。
2）作業療法学の発展をリードすることができる有能な人材を育成する。
3）作業療法の技術開発と有効なエビデンスの基礎を学び，実証できる知識と技術を修得した人材を育成する。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

**専攻のCP（カリキュラム編成方針）**

作業療法士は人と接する職業であるため，幅広い教養と知識を身につけることが大切である。保健・医療の領域で活動を行うために，医学の基礎知識の修得が重要である。専門基礎科目として，解剖・生理学，運動学などを学び，その後に臨床医学へと結びつけていく。学生は学内だけの講義・実習に加えて，リハビリテーションが行われている実際の現場を見学して学んでいく。学年進行にあわせて，作業療法専門科目が多くなるが，学外での評価学実習を組み入れて，学内で学んだ知識と技術を臨床を通して確認しながら進めていく。同時に面接等において必要な対人交流技術を修得する。最終学年においてはそれまでに修得した基礎科目及び専門科目を統合し，作業療法士に必要な知識・技術をさらに磨き修得できる教育課程に編成している。

**専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）**

| 目標A | 目標B | 目標C | 目標D | 目標E | 目標F | 目標G | 目標H | 目標I | 目標J | 目標K | 目標L | 目標M | 目標N | 目標O |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 正常な身体と発達を理解する | | 疾病・障害を理解する | 地域における保健の役割を理解する | | 作業療法の基礎を理解する | | 評価法を理解する | 疾患・障害に応じた作業療法の実践を理解する | | | | 臨床的応用法を修得する | | 初歩的な研究技能を学ぶ |
| 正常な人体の構造と機能を理解し，身体運動と日常生活での営みと関連させて理解する | 身体運動機能・知的機能の正常な発達を理解する | 健康・疾病・障害の概念および症候・診断・治療について理解する | 保健医療福祉の推進のために作業療法士が果たす役割を理解する | 地域における関係諸機関と対象者に対する調整の役割を理解する | 作業療法概念および作業療法の展開方法を理解する | 基礎作業療法学の理念を理解する | 作業療法評価の概念を理解し，評価技術・技能を修得する | 作業治療学の基本的枠組みを理解する | 身体・老年期・精神・発達障害に関する知識・技術・技能を修得する. | 生活および職業関連活動における作業行動の形成について理解する | 地域ケア活動の基本的な概念，展開のための能力を修得する | 臨床的観察力・分析力，そして治療計画立案能力・実践力を身につける | 作業療法を推進するための知識・技術・技能を統合する | 研究の知識・技能を修得する |

**専攻のカリキュラム**

| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | 目標A | 目標B | 目標C | 目標D | 目標E | 目標F | 目標G | 目標H | 目標I | 目標J | 目標K | 目標L | 目標M | 目標N | 目標O |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 社会関連活動学 | 1. 障害者を雇用している企業や障害者自立支援施設において体験学習をする.<br>2. 関連法規を理解する.<br>3. 職業前訓練および就労までの準備，留意点について修得する.<br>4. 職業評価バッテリーの使用法と解釈について修得する. | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ○ | | | |
| | 評価学実習Ⅰ | 1. リスク管理ができる.<br>2. 対象者や職員とコミュニケーションがとれる.<br>3. 情報収集ができる.<br>4. 記録に記載されている専門用語が理解できる.<br>5. 検査測定技術が正確にできる.<br>6. 問題点を列挙し相互関係を理解できる.<br>7. 口頭報告ができる.<br>8. レポートを書くことができる. | | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | △ | △ | △ | △ | | | |
| | 評価学実習Ⅱ | 1. リスク管理を理解する.<br>2. 対象者や職員とコミュニケーションの方法を理解し，ディスカッションの重要性を理解する.<br>3. 評価，治療に必要な情報を理解する.<br>4. カルテに書かれている用語等を含め，疾患および障害を正しく理解する.<br>5. 作業の方法，検査法を正しく用い，理解する.<br>6. 患者の問題点を抽出し，治療目標の設定を理解する.<br>7. 簡潔にわかりやすい報告を作成する. | | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | △ | △ | △ | △ | | | |
| | 総合臨床実習Ⅰ | 1. 実習生としての役割および責任を認識しつつ，将来必要な専門的知識と技術を習得する.<br>2. 作業療法士としての資質の向上に努める.<br>3. 評価・治療を経験し，記録・報告を適切に行う.<br>4. 他の学習機会へ積極的に参加する.<br>5. 臨床現場における管理運営法を学ぶ.<br>6. 社会人としての適正な行動がとれるように努める. | | | | | | | | | △ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |
| | 総合臨床実習Ⅱ | 1. 実習生としての役割および責任を認識しつつ，将来必要な専門的知識と技術を習得する.<br>2. 作業療法士としての資質の向上に努める.<br>3. 評価・治療を経験し，記録・報告を適切に行う.<br>4. 他の学習機会へ積極的に参加する.<br>5. 臨床現場における管理運営法を学ぶ.<br>6. 社会人としての適正な行動がとれるように努める. | | | | | | | | | △ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |
| | 総合臨床実習Ⅲ | 1. 実習生としての役割および責任を認識しつつ，将来必要な専門的知識と技術を習得する.<br>2. 作業療法士としての資質の向上に努める.<br>3. 評価・治療を経験し，記録・報告を適切に行う.<br>4. 他の学習機会へ積極的に参加する.<br>5. 臨床現場における管理運営法を学ぶ.<br>6. 社会人としての適正な行動がとれるように努める. | | | | | | | | | △ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |